

榎記念室開設式の参加報告

1 開設式典の概要等

平成20年10月28日(火)、防衛大学校資料館において「榎記念室」の開設式が実施され、五百旗頭・防衛大学校長、竹河内・防大同窓会長、各期生会代表者、榎家の方々をはじめ関係者多数が参加したが、12期生会から会長代理として藤本・業務幹事が出席した。

榎記念室は、榎・初代学校長のご功績とご遺徳を顕彰し、その教えと建学の理念を永く後世に伝える施設として開設されたものである。

式典は、厳粛な中にも和やかな雰囲気で行われ、特に榎校長の薫陶を受けた1期生～12期生の各代表者は、在学当時をなつかしく振り返っていた。

2 榎記念室の展示内容等

(1) 写真資料； 参照

(2) 参考事項；

防大同窓会ホームページ(URL；<http://www.bodaidsk.com/>)の「本部事務局からのお知らせ」の「総務部」をクリックし、さらに「初代防大校長榎記念室開設式」をクリックすれば、同窓会の報告が掲載されている。

防衛大学の本部校舎(正門付近から撮影)



防衛大学校資料館(旧図書館横付近)



榎智雄・初代学校長の胸像





報告者(藤本)記念撮影

榎記念室の内部(式典会場)



式典における榎桂氏(榎校長の孫)のご挨拶



榎記念室の銘板



記念室内の展示 1



記念室内の展示 2

榎家と榎の生い立ち



大正3年度の榎家（左列が榎、右の左は榎有造、右が榎有造の妻）

榎の祖父小太郎は新潟県長岡藩出身で、幕末、河井権之助の下で藩政に奔走し、戊辰戦争でも官軍を相手に奮戦しました。その他の長岡藩では、榎家の苦難でもありました。父の武も叔父の哲も苦学力行とともに福澤諭吉に見出され、父は慶應義塾の学徒、叔父は同塾塾生となりました。その後、父は福澤の推薦で仙台の奥羽日々新聞の主筆になり、三井銀行を経て神奈川銀行頭取になりました。叔父は北越銀行、王子製紙を経て台湾の塩水港精糖の社長になり、奨学金の設立や助教以下での留学費用の援助など、慶應義塾の発展に貢献しました。

榎は父の奥羽日々新聞主筆時代に仙台で生まれ、父の異動とともに神戸、京都、さらに転地療養のために仙台に移ったあと、12歳から父、叔父が学んだ慶應義塾の普通部に編入し、これより慶應一筋の道を進むことになりました。



祖父の榎哲
(慶應義塾大学中央図書館蔵)



慶應義塾大学東洋部社会実習
の別荘から大人数が撮影した写真
(慶應義塾大学中央図書館蔵)

この写真が撮影されたのは、大正10年（1921年）のことです。

渡英と第一次大戦

大正3年(1914)、22歳で慶應義塾大学理学部を卒業した榎は、第一次大戦下の英国オックスフォード大学に留学しました。渡英本邦の名学を断るためシベリア鉄道を利用し、ノルウェーのベルゲンから北海を渡って英国に入りました。途中ロシアでは、革命前夜の莫大な空襲に驚かされています。

英回到家後、灯火管制や放火警報による無言の恐怖の恐怖を体験し、西部戦線の激しい戦闘から、経済が戦争に負ける影響を鋭い観察力で分析しています。また内政の上級階級出身者が、率先して戦地に赴く使命・義務感(ノーブルス・オブリージョ)にも深い感銘を受けています。近現代史が再び大いなる人命や資源を消費するのを阻止して感じた数少ない日本人であり、この時の見聞が榎の戦時下の眼差しになったものと考えられます。



オックスフォード大学で撮影された榎の自撮り写真
（慶應義塾大学中央図書館蔵）



オックスフォード大学で撮影された榎の自撮り写真
（慶應義塾大学中央図書館蔵）

オックスフォード サー・アーネスト



榎は大正3年(1914)にオックスフォードに留学し、1915年にオックスフォード大学で学位を授けられます。このときの感動から、戦時下の生活に大きな影響を与えました。

榎は在学中に古代ギリシアの歴史の研究で有名な高田清三(アガパー)の著書を受け、主眼を

記念室内の展示 3



記念室内の展示 4



記念室内の展示 5



記念室内の展示 6



主要年表

- 1900 2月 4日 同志舎開設(同志舎の前身)決定
- 1901 1月25日 同志舎開校
- 1902 3月 同志舎予備校(同志舎)に大学附設立学認可
- 1903 4月 1日 同志舎開校、同志舎開校
- 1904 4月 1日 同志舎で同志舎開校
- 1905 4月 1日 第1期生(100名)入校式
- 1906 11月 1日 同志舎創立
- 1907 11月 3日 第1期生(同志舎)の卒業式(開校)
- 1908 3月27日 第4期生(同志舎)の卒業式(開校)
- 1909 7月 1日 同志舎開校、同志舎開校
- 1910 7月 1日 同志舎開校
- 1911 12月15日 第1期生(同志舎)の卒業式(開校)
- 1912 3月17日 同志舎から同志舎へ移転
- 1913 3月 1日 同志舎創立、同志舎創立、同志舎創立
- 1914 3月 1日 同志舎創立、同志舎創立、同志舎創立
- 1915 12月 同志舎創立
- 1916 3月25日 同志舎創立、同志舎創立、同志舎創立
- 1917 3月 1日 同志舎創立、同志舎創立、同志舎創立
- 1918 3月15日 同志舎創立、同志舎創立、同志舎創立
- 1919 3月 同志舎創立
- 1920 3月 同志舎創立
- 1921 3月 同志舎創立
- 1922 3月 同志舎創立
- 1923 3月 同志舎創立
- 1924 3月 同志舎創立
- 1925 3月 同志舎創立
- 1926 3月 同志舎創立
- 1927 3月 同志舎創立
- 1928 3月 同志舎創立
- 1929 3月 同志舎創立
- 1930 3月 同志舎創立
- 1931 3月 同志舎創立
- 1932 3月 同志舎創立
- 1933 3月 同志舎創立
- 1934 3月 同志舎創立
- 1935 3月 同志舎創立
- 1936 3月 同志舎創立
- 1937 3月 同志舎創立
- 1938 3月 同志舎創立
- 1939 3月 同志舎創立
- 1940 3月 同志舎創立
- 1941 3月 同志舎創立
- 1942 3月 同志舎創立
- 1943 3月 同志舎創立
- 1944 3月 同志舎創立
- 1945 3月 同志舎創立
- 1946 3月 同志舎創立
- 1947 3月 同志舎創立
- 1948 3月 同志舎創立
- 1949 3月 同志舎創立
- 1950 3月 同志舎創立
- 1951 3月 同志舎創立
- 1952 3月 同志舎創立
- 1953 3月 同志舎創立
- 1954 3月 同志舎創立
- 1955 3月 同志舎創立
- 1956 3月 同志舎創立
- 1957 3月 同志舎創立
- 1958 3月 同志舎創立
- 1959 3月 同志舎創立
- 1960 3月 同志舎創立
- 1961 3月 同志舎創立
- 1962 3月 同志舎創立
- 1963 3月 同志舎創立
- 1964 3月 同志舎創立
- 1965 3月 同志舎創立
- 1966 3月 同志舎創立
- 1967 3月 同志舎創立
- 1968 3月 同志舎創立
- 1969 3月 同志舎創立
- 1970 3月 同志舎創立
- 1971 3月 同志舎創立
- 1972 3月 同志舎創立
- 1973 3月 同志舎創立
- 1974 3月 同志舎創立
- 1975 3月 同志舎創立
- 1976 3月 同志舎創立
- 1977 3月 同志舎創立
- 1978 3月 同志舎創立
- 1979 3月 同志舎創立
- 1980 3月 同志舎創立
- 1981 3月 同志舎創立
- 1982 3月 同志舎創立
- 1983 3月 同志舎創立
- 1984 3月 同志舎創立
- 1985 3月 同志舎創立
- 1986 3月 同志舎創立
- 1987 3月 同志舎創立
- 1988 3月 同志舎創立
- 1989 3月 同志舎創立
- 1990 3月 同志舎創立
- 1991 3月 同志舎創立
- 1992 3月 同志舎創立
- 1993 3月 同志舎創立
- 1994 3月 同志舎創立
- 1995 3月 同志舎創立
- 1996 3月 同志舎創立
- 1997 3月 同志舎創立
- 1998 3月 同志舎創立
- 1999 3月 同志舎創立
- 2000 3月 同志舎創立
- 2001 3月 同志舎創立
- 2002 3月 同志舎創立
- 2003 3月 同志舎創立
- 2004 3月 同志舎創立
- 2005 3月 同志舎創立
- 2006 3月 同志舎創立
- 2007 3月 同志舎創立
- 2008 3月 同志舎創立
- 2009 3月 同志舎創立
- 2010 3月 同志舎創立
- 2011 3月 同志舎創立
- 2012 3月 同志舎創立
- 2013 3月 同志舎創立
- 2014 3月 同志舎創立
- 2015 3月 同志舎創立
- 2016 3月 同志舎創立
- 2017 3月 同志舎創立
- 2018 3月 同志舎創立
- 2019 3月 同志舎創立
- 2020 3月 同志舎創立
- 2021 3月 同志舎創立
- 2022 3月 同志舎創立
- 2023 3月 同志舎創立
- 2024 3月 同志舎創立

学生食堂(新)での記念会食(「食当」が配食を担当する姿は変わらず)



学生舎前的大通り(旧1大隊学生舎付近)

